

日本口腔インプラント学会
第23回関東甲信越支部総会
学術大会

プログラム・抄録集

会 期：平成15年10月19日(日)
会 場：都市センターホテル
主 催：日本口腔インプラント学会関東甲信越支部
大会長：五十嵐俊男
主 幹：(社)日本歯科先端技術研究所 関東甲信越地区会
後 援：神奈川県歯科医師会
千葉県歯科医師会

インプラントのトラブルとリカバリー

○田島和典¹⁾, 浅井澄人¹⁾, 河野 孝¹⁾,
高橋恭彦¹⁾, 河野正直¹⁾, 渡辺孝夫¹⁾²⁾

(社)日本歯科先端技術研究所¹⁾, 厚生歯科²⁾

I. 目的

インプラント患者, 自験例について, トラブルの内容とその対処法を分析し, インプラントのメンテナンスのあり方を検討する.

II 材料および方法

厚生歯科(千葉県市川市)にて, 1983年9月5日以後にインプラント植立, 15年以上の経過症例53名(男性25名, 女性38名, 平均年齢 歳)を対象とした. 患者カルテを基に, インプラントの種類, 植立部位, 植立日, 上部構造の種類, 治療終了後のトラブル(患者が障害を自覚し, その解決を本医院に求めてきたもの)およびその日時, 対処内容等を調査した. トラブル内容を上部構造に関するもの(タイプI), 中間構造連結部に関するもの(タイプII), インプラント体および周囲組織に関するもの(タイプIII), そして上部構造と連結する天然歯支台に関するもの(タイプIV)に分類した.

III 結果

インプラントの種類は, アパセラム(旭光学)22本, バイオセラム(京セラ)49本, ITI (Straumann) 42本, パラゴン(Paragon) 24本, JIAD1本の合計118本(53人)であった. 上部構造単位にみると, 上部構造総数は43個, 大きさは1歯から6歯であった. トラブルタイプ別分類では, タイプIは12個(27.9%)に, タイプIIは0個(0%)に, タイプIIIは35個(81.4%)に, そしてタイプIVは5個(11.6%)にみられた.

IV 考察および結論

インプラント治療を行う個人開業医の特性として, 植立手術, 上部構造の作製およびメンテナンスまで一人の術者が治療からメンテナンスまで, 総てを司る, と言うことがあげられる. そこには, 長期のメンテナンスを考えた治療と受け入れ体制が必要と考えられる. 今回, 治療後長期経過症例について, 臨床経過を調査した結果, 治療時最良と思われ, 現在, 市販されなくなったインプラントが多数みられたこと, 上部構造で連結された天然歯のトラブルが特定のインプラントでみられたこと, トラブルではタイプIIIの症例が最も多かったこと, などの所見が得られた. これらは, メンテナンス体制を確立するために考慮すべき点と思われた.